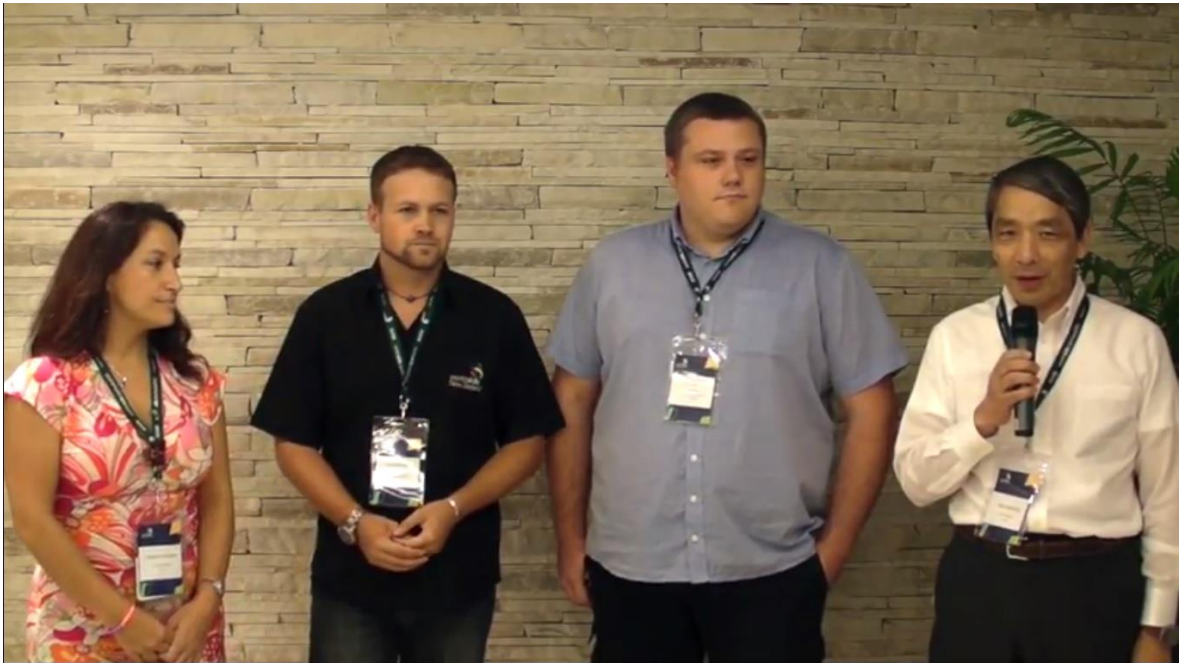


第 43 回技能五輪国際大会 ブラジル サンパウロ大会報告

技術代表 垣本 映

平成 27 年 8 月 11 日（火）から 8 月 16 日（日）まで技能五輪国際大会がブラジルのサンパウロ市内にあるアニエンビ展示場にて開催されました。サンパウロ大会の選手派遣国は 59 カ国、選手数は 1189 名です。関係者の参加者数だけで 5 倍の 5000 名以上、見学者を入れると 4 日間で 20 万人の来場者があったとされ、順調に規模を拡大してきています。

8 月 5 日から現地に入り、技術委員会、総会、審判長会議、職種管理チーム会議に出席しました。技術代表は各国から 1 名ずつ、国によっては技術代表補佐が同行しています。50 職種の競技運営を行うに当たり、各職種に原則として 1 名ずつの審判長が配置され、技術代表または技術代表補佐が割り当てられています。審判長会議とはこの審判長並びに技術委員会の役員が参加する会議のことで、各職種運営の進捗状況や問題点を討議する場です。



職種管理チーム会議には審判長会議のメンバーに加えて、チーフエキスパート、副チーフエキスパートも参加します。今回、技術委員会の指名で電工職種の職種管理チームの審判長となりました。上の写真は職種管理チームの紹介ビデオを制作した時のものです。左からチリのガルベスさん、ニュージーランドのポストリッジさん、スウェーデンのスペンソンさんです。様々な国のバックグラウンドや立場の異なる人が協力して競技の運営を行います。

総会には公式代表、技術代表および技術代表補佐が参加し、新しい加盟国（メンバー）の承認（コスタリカ、イスラエル、パレスチナ）や、新役員の紹介、2017 年次期大会地アブダビの紹介、また 2019 年開催の次々期大会候補地の投票が行われました。パリ（フランス）、シャルルロワ（ベルギー）、カザン（ロシア）が立候補地で投票の結果、カザンとなりました。

これらの会議の他、エキスパートの準備会議や不正行為等申し立てに対する調整会議などに出席しました。技能五輪全国大会では考えられないことですが、公平性、透明性を確保するために、紛争解決のルールや手順が大きな課題となっています。参加して間もない加盟国が増え、この重要性が増してきています。

8月15日、競技期間最終日には順位を決める最終成績の報告がありました。審判長を務める電工職種においては採点、確認に加えて、次回大会に向けた準備も合わせて行ったため、終了が翌日の午前4時過ぎとなりました。準備内容は課題の外部作成依頼について、職種定義の変更について、チーフエキスパート、副チーフエキスパートの選出についてです。他に、日本チームの参加する職種で採点結果に関する相談があり関係者と交渉しました。次期大会においても最終日はぎりぎりまで対応できる態勢が必要となります。

日本選手は40職種に参加し大活躍しました。結果は金メダル5個、銀メダル3個、銅メダル5個、敢闘賞14個でした。金メダル獲得職種は「情報ネットワーク施工」、「自動車板金」、「製造チームチャレンジ」、「移動式ロボット」、「電子機器組み立て」です。銀メダル獲得職種は「試作モデル製作」、「プラスチック金型」、「ビューティセラピー」です。また銅メダル獲得職種は「電工」、「工場電気設備」、「構造物鉄工」、「配管」、「洋菓子製造」です。

金メダルの数で日本は3位となりました。前回のライプチヒ大会に比べると金メダルの数が5と変わりませんが、銀メダル、銅メダルと合わせたメダル総数では1つ上回りました。今回、情報ネットワーク施工の島瀬選手(きんでん)が金メダルの他にベストオブネーション(日本チーム内最高得点)を受賞しました。敢闘賞は全体では前回より4個減りました。ただ、生業系の職種では2つのメダルを獲得した外、敢闘賞も多く、製造系職種とともにバランス良く健闘したといえます。

なお、今大会から製造系の15職種において、通訳の抽選制がパイロットプロジェクトとして導入されました。トヨタやデンソーの選手がメダルを獲得している状況から、大きな影響がなかったように見えますが、職種によっては問題が生じました。次期アブダビ大会では全職種で抽選制が導入されるため、早くから通訳の方の研修、選手やエキスパートを交えた合同研修などを行って大会に備えることになりました。

最後になりますが、職業大からは私の他に、島瀬選手を指導した菊池准教授がチーフエキスパートとして参加しました。2005年の大会から情報ネットワーク施工職種のチーフエキスパートを務め、6連覇を達成しました。アブダビ大会では7連覇と選手のアルバートビダル賞の単独受賞への期待がかかっています。以下の写真は大会中エキスパートと打ち合わせをしているところです。

チーフエキスパートとしての職務は選手の指導や大会中の競技運営だけではありません。競技課題の調整、資材や機器の決定に加え、参加選手数が規定数の12名を上回るよう、常に加盟国に働きかけ普及していくことや、職種の内容を業界水準にアップデートしていくことなど、多岐にわたります。これまで菊池准教授が日本チームとしても唯一であり、今後、チーフエキスパートを輩出していくことが、日本チームの好成績への戦略の一つとなっています。

アブダビ大会からは職種競技マネージャという職務が設けられ 26 職種でチーフエキスパートに代わり各職種の運営を指揮します。技能五輪国際大会を運営するワールドスキルズから大会ごとに任命される要の職務です。職種競技マネージャはロシアのカザン大会からは全職種へ導入される予定です。菊池准教授がアブダビ大会ではこの職種競技マネージャに日本人として唯一任命されています。

